

日時

3/5日 13:30~16:30 (開場 13:00)

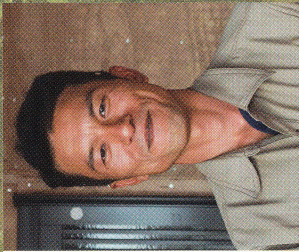
会場：合人社ウエンディひとまちプラザ 袋町小学校のお隣です。 北棟6Fマルチメディアスタジオ

〒730-0036 広島県広島市中区袋町6-36 TEL:082-545-3911

前売券：500円 (当日券は +100円です。)

ふくしまの 樽川和也さん

1975年、専業農家の8代目として福島県須賀川市に生まれる。青森の大学で機械工学を学び、いわき市で会社勤めを経験。10年前から実家に戻り、父とともに農業に従事。原発事故後も放射能汚染と闘いながら、先祖から受け継いだ4haの農地を守って米を作り、胡瓜やブロッコリーなどの野菜作りに勤む。「生業を返せ、地域を返せ!」福島原発訴訟に原告として参加している。



ひろしまの 秋葉忠利さん

1942年生まれ。東京大学理学部卒、マサチューセッツ工科大学で、Ph.D. 専攻は数学。日米の大学で教鞭をとり、衆議院議員を10年。2011年春まで12年にわたり広島市長。2013年にドイツ国連協会からアジア人として初のオットー・ハーン平和メダル、2015年に谷本清平和賞等を受賞。著書「ヒロシマ市長」(朝日新聞出版)、「報復ではなく和解を ヒロシマから世界へ」(岩波現代文庫)ほか多数。



ひろしまの

アーサー・ビナードさん

1967年、アメリカ、ミシガン州生まれ。ニューヨーク州コルゲート大学卒業と同時に来日。詩作を始め。2001年、詩集『釣り上げては』(思潮社)で中原中也賞受賞。2013年、『さがしています』(童心社)で講談社出版文化賞の絵本賞。宮沢賢治の『雨にモマケズ』(今人舎)もバイリンガルの絵本として出版。翻訳者・エッセイストとしても活躍中。



司会進行 中澤晶子 (児童文学作家 日本児童文学者協会会員)

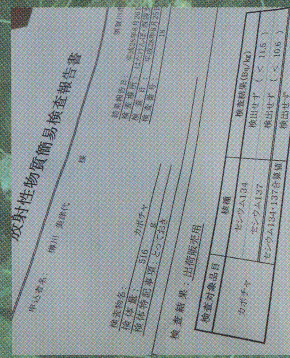
託されたもの——大地と人と。

福島と広島をつなぐ、もみのきの会 第5回シンポジウム

原発輸出の二コースを聞いて、福島の農業者は言いました。「ほろけやねえの、この国は!」。人は字面通り生き物です。過去の過ちを学び、同じ過ちを繰り返さないはずでした。「アンケートロール」の虚言のちごちごちの不都合に目をこらり、過ちを封印するその「ほろけな国」その国の民として、わたしたちは東広島電力福島第二原発の重大事故から6度目の春をむかえようとしています。「もう終わらせた」としても「わたしには関係ないもの」——誰ももちいらぬことから、目をそらさうとすれば、その事実が、私たちの前に横たわって、未来を生きようとしていきます。ワンコインシンポジウムは今回も、事故後も福島で先祖から受け継いだ農地を守り、作物を育て続ける農業者を迎え、福島の、日本の「今」を、「農」を通して語り合ってください。



福島県飯館村の「飯飯置き場」に積まれた、フレコンバッグ。村では、高濃度汚染の一部地区を除き、村民の帰還を目ざしており、3,000億円以上にのぼる巨額の費用をかけて、全村の除染を実施中。(2016年11月撮影)



福島では農作物出荷の際、今なお「放射性物質簡易検査報告書」を提出する。検査には約500gのサンプル作物が必要で、それに對する代金は、どこからも支払われない。(資料提供：樽川和也さん)

わたしたちは、農の民です。土を耕し、土からの恵みを受け、土とともに生きてきました。その土が理不尽にも汚された今、わたしたちは、どのように生きていけばよいのでしょうか。答えはありません。ない答えを探すため、わたしたちは、きょうも土を耕し、土とともに生きています。



主催：福島と広島をつなぐ、もみのきの会

【お問い合わせ】082(961)5770 (卸センター・もみのき保育園内) ※詳しくはお問い合わせください。

もみのき

ホームページ http://mominokinokai.main.jp/